



東映株式会社

2026年3月期第1四半期 連結決算説明資料

(2025/4～2025/6)



公式LINE【東映IR News】



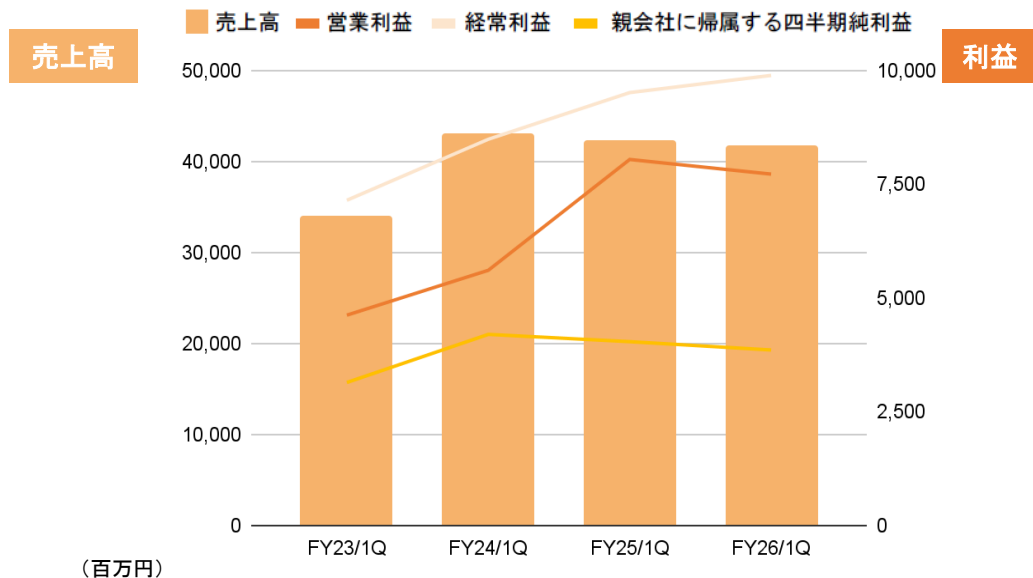
公式X【東映公式ニュース】



2026年3月期第1四半期決算（連結）

（百万円）	FY23/1Q	FY24/1Q	FY25/1Q	FY26/1Q	前期比較	
売上高	34,103	43,063	42,353	41,836	▲516	▲1.2%
売上原価	21,565	28,617	25,127	24,190	▲937	▲3.7%
販管費	7,915	8,837	9,180	9,923	743	8.1%
営業利益	4,622	5,608	8,045	7,723	▲322	▲4.0%
経常利益	7,148	8,489	9,515	9,893	378	4.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,142	4,199	4,039	3,856	▲182	▲4.5%

※FY=会計年度：FY26/1Qは2025年4月～2025年6月の期間 ※百万円未満を切り捨てて表示しております。



- 売上高 418億3千6百万円（前期比1.2%減）
- 営業利益 77億2千3百万円（前期比4.0%減）
- 経常利益 98億9千3百万円（前期比4.0%増）
- 親会社株主に帰属する純利益
38億5千6百万円（前期比4.5減）

* 2004年以降の同期比較で

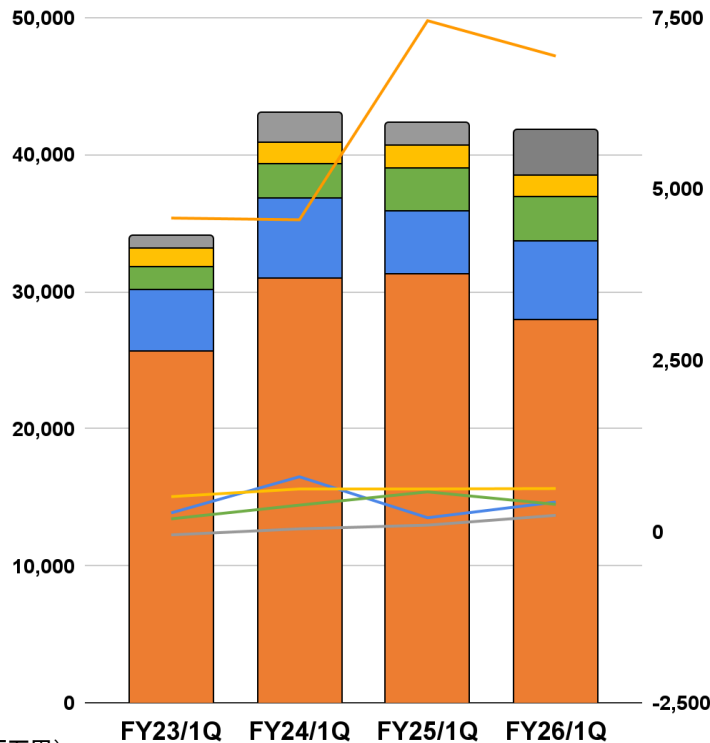
**売上高第3位、営業利益第2位、経常利益第1位、
親会社株主に帰属する当期純利益第3位**

<分析>

映画興行関連事業は好調となり業績は堅調であったが、映像関連事業における国内外の配信権販売や商品販売等が前年同期比で減少し減収となった。また人件費やT・ジョイ エミテラス所沢の地代家賃および減価償却費が前年同期比で増加したことで販管費が増加し、営業利益で減益となった。

売上高

利益



セグメント	サブセグメント	FY25/1Q	FY26/1Q	増減	比較増減	セグメント割合
映像関連事業	映画	1,052	695	▲357	▲33.9%	2.5%
	ドラマ	1,963	2,429	465	23.7%	8.7%
	コンテンツ	23,842	20,375	▲3,467	▲14.5%	72.6%
	その他	4,468	4,547	78	1.8%	16.2%
	売上高合計	31,327	28,047	▲3,280	▲10.5%	100.0%
	利益合計	7,455	6,939	▲515	▲6.9%	
興行関連事業	売上高合計	4,590	5,765	1,175	25.6%	100.0%
	利益合計	202	431	228	112.8%	
催事関連事業	催事	2,706	2,851	145	5.4%	88.9%
	映画村	502	356	▲145	▲29.1%	11.1%
	売上高合計	3,208	3,207	0	▲0.0%	100.0%
	利益合計	580	397	▲183	▲31.6%	
観光不動産関連事業	不動産賃貸	1,116	1,102	▲13	▲1.3%	69.6%
	ホテル	482	482	0	0.0%	30.4%
	売上高合計	1,598	1,584	▲14	▲0.9%	100.0%
	利益合計	622	628	5	1.0%	
建築内装関連事業	売上高合計	1,627	3,231	1,603	98.5%	100.0%
	利益合計	94	237	143	151.7%	
売上高合計		42,353	41,836	▲516	▲1.2%	
利益調整額		▲910	▲911	▲1		
利益合計		8,045	7,723	▲322	▲4.0%	

※百万円未満を切り捨てて表示しております。

(百万円)

(百万円)		FY25/1Q	FY26/1Q	増減比率	
映像関連事業	売上高	31,327	28,047	▲3,280	▲10.5%
	利益	7,455	6,939	▲515	▲6.9%

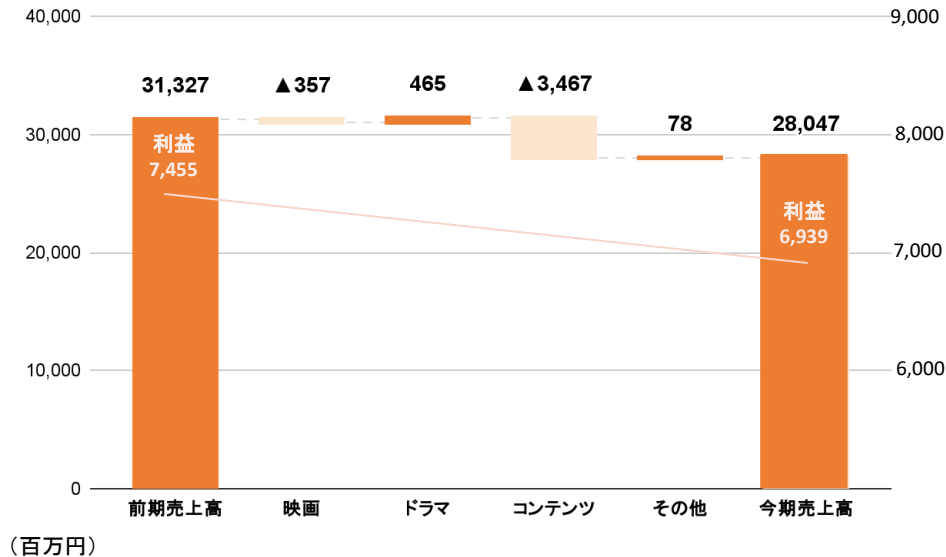
●売上高は映画のヒットが少なかったこと、アニメの配信権販売収入が前期の反動減となったことから前期比減となった。

●アニメの海外版權事業が好調だったこと等から利益を確保した。

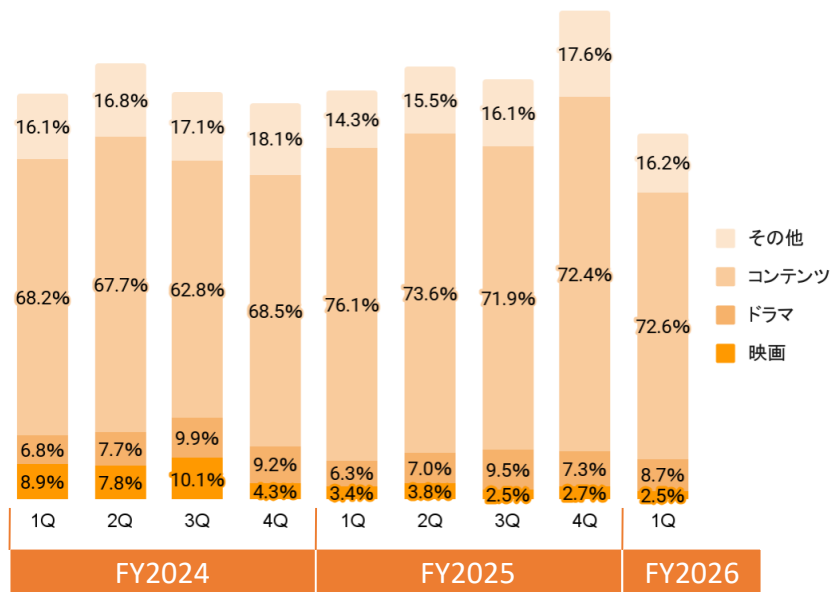
売上高

【売上高 前年同期比増減】

利益



【サブセグメントシェア推移】



(百万円)	売上高	FY25/1Q	FY26/1Q	増減比率	
サブセグメント	映画	1,052	695	▲357	▲33.9%
	ドラマ	1,963	2,429	465	23.7%
	コンテンツ	23,842	20,375	▲3,467	▲14.5%
	その他	4,468	4,547	78	1.8%

【映画】

●『35年目のラブレター』がヒットしたものの、そのほかの作品の配給収入が見込みに到達せず、前年同期比よりも売上高が減少した。

【ドラマ】

●『仮面ライダーガヴ』『ナンバーワン戦隊ゴジウジャー』『特捜9』といったシリーズ作品の受注のほか、新シリーズ『天久鷹央の推理カルテ』の受注により放映収入が前年同期に比べ増加した。

●商品化権収入は、「仮面ライダー」シリーズの商品化やゲームアプリへの著作権許諾権収入が売上高の増に貢献した。

【コンテンツ】

●国内アニメコンテンツ

配信権販売は前年の『THE FIRST SLAM DUNK』、『鬼太郎誕生 ゲゲゲの謎』が好調であったこと等の反動を受け、減収となった。

商品化権販売は「ドラゴンボール」シリーズのゲーム化権販売が前年同期の勢いに至らず減収となった。

●国内実写コンテンツ

配信権販売は、『室町無頼』や人気コンテンツの契約更新等が売上高に貢献したものの、前年同期の大型作品『セタの国』の反動減となった。一方、大型作品の製作原価が発生しなかったため結果的に原価の減となり前年同期に比べて利益は増加した。

テレビ放送権販売は堅調に推移した。

●海外アニメコンテンツ

配信権販売と、「ドラゴンボール」シリーズのビデオ化権販売は昨年好調であったことの反動を受け減収となった。

商品化権販売は「ワンピース」、「デジモン」シリーズが好調に推移し増収・増益となった。

●海外実写コンテンツ

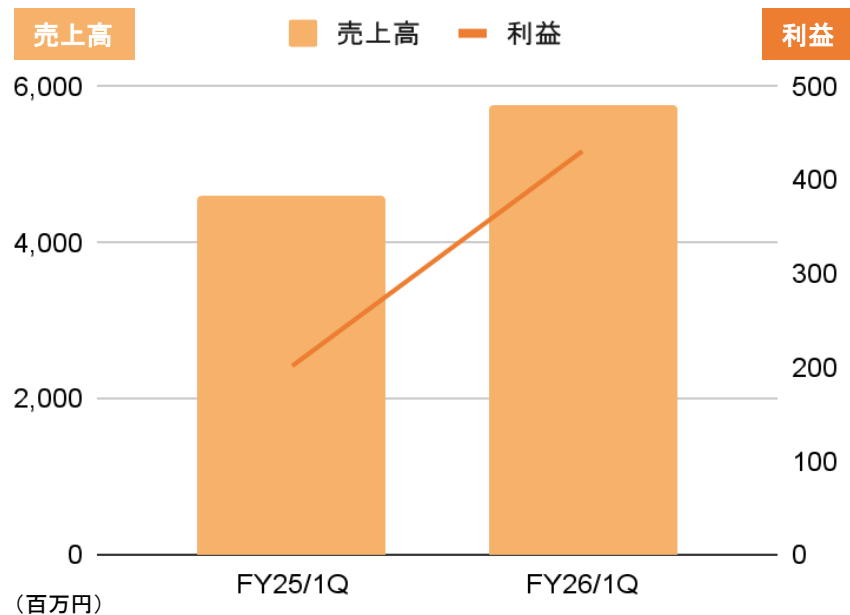
堅調に推移し、ドイツ向け『十一人の賊軍』他、中南米向け『犬鳴村』他、タイ向け『仮面ライダー展』等の販売が売上高の増に貢献した。

【その他】

●『ガールズバンドクライ』の催事、「プリキュア」シリーズのショップ事業が好調に稼働した。

前年同期に好調に稼働した映画『THE FIRST SLAM DUNK』の商品販売は反動減となった。

(百万円)		FY25/1Q	FY26/1Q	増減比率	
興行関連事業	売上高	4,590	5,765	1,175	25.6%
	利益	202	431	228	112.8%



▶株式会社ティ・ジョイによるシネマコンプレックス（共同経営・共同運営）の運営が中心

▶24サイト232スクリーン体制（東映㈱直営館2スクリーン含む）で展開

※直営館は2025年7月27日に閉館

・『名探偵コナン隻眼の残像』『ミッション：インポッシブル／ファイナル・レコニング』『国宝』『ヒプノシスマイク-Division Rap Battle-』『マインクラフト/ザ・ムービー』が高稼働し売上高を押し上げた。

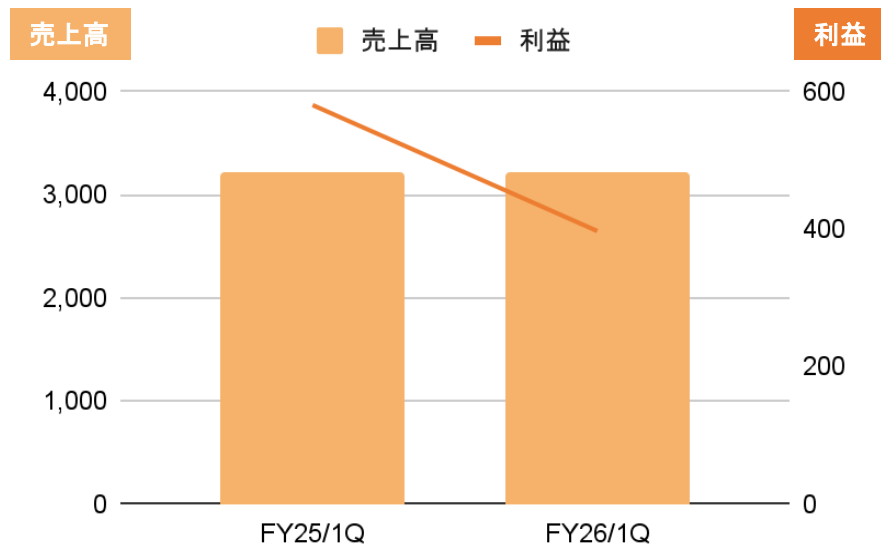
・『Ryosuke Yamada LIVE TOUR 2025 RED LIVE VIEWING』などのライブビューイングが好調だった。

・FY25にオープンしたT・ジョイ エミテラス所沢が好稼働し、売上高が増加した。

2026年3月期第1四半期 セグメント別分析 (連結) 【催事関連事業】

(百万円)		FY25/1Q	FY26/1Q	増減比率	
催事関連事業	売上高	3,208	3,207	0	▲0.0%
	利益	580	397	▲183	▲31.6%

(百万円)	売上高	FY25/1Q	FY26/1Q	増減比率	
サブセグメント	催事	2,706	2,851	145	5.4%
	東映太秦映画村	502	356	▲145	▲29.1%



(百万円)

【催事】

- イベント事業
 - ・『ブルックリン博物館所蔵 特別展 古代エジプト』『シルバニアファミリー展40th』『ヒーローライブスペシャル2025』『王様戦隊キングオージャーフィルム・コンサート』（各、東京会場）の動員、物販が牽引。
- 商品事業（劇場商品、ECサイト、仮面ライダーストア等）
 - ・仮面ライダーストアが引続き好調。また、他社配給作品『たべっ子どろぶつ THE MOVIE』のパフレット請負制作が売上高に寄与した。
 - ・一方、前期は映画のヒットにより好調だった劇場関連商品、EC受注商品の売上高は反動減となった。

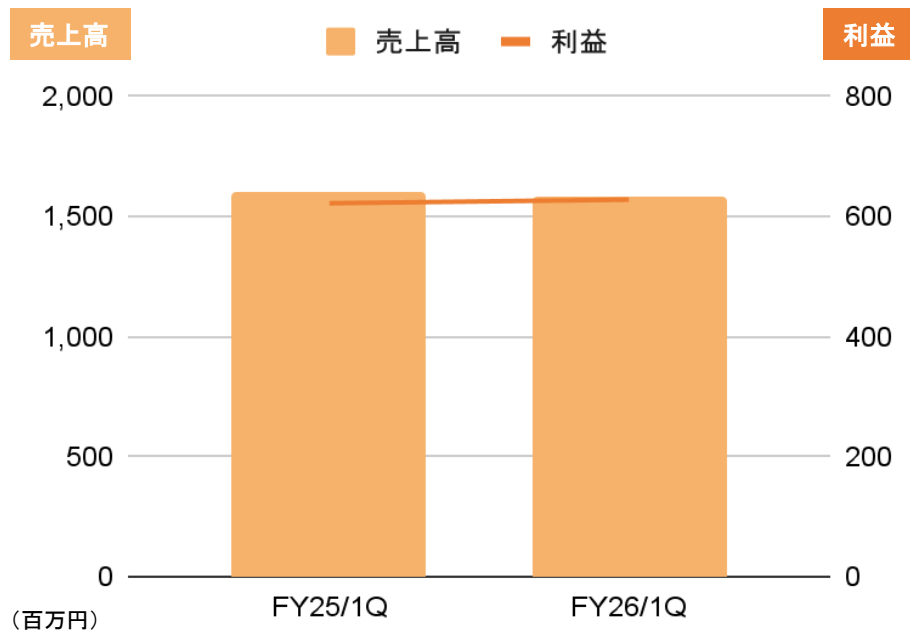
【東映太秦映画村】

- ・前年同期に開催し好調だった『ゲゲゲの鬼太郎』とのコラボイベントの反動とリニューアルに伴うエリア縮小により減収となった。
- ・リニューアル関連費用が増加した。

2026年3月期第1四半期 セグメント別分析（連結）【観光不動産事業】

（百万円）		FY25/1Q	FY26/1Q	増減比率	
観光不動産事業	売上高	1,598	1,584	▲14	▲0.9%
	利益	622	628	5	1.0%

（百万円）	売上高	FY25/1Q	FY26/1Q	増減比率	
サブセグメント	不動産賃貸	1,116	1,102	▲13	▲1.3%
	ホテル	482	482	0	0.0%



【不動産賃貸】

・渋谷・福岡・広島・仙台に所有する「東映プラザ」や「新宿三丁目イーストビル」等の複合商業施設、マンション等の賃貸運営をするなか、テナントの入替など取引のタイミングが影響し前年同期比で売上高が減少した。

・東映太秦映画村の減価償却費が前年同期比で減少した。

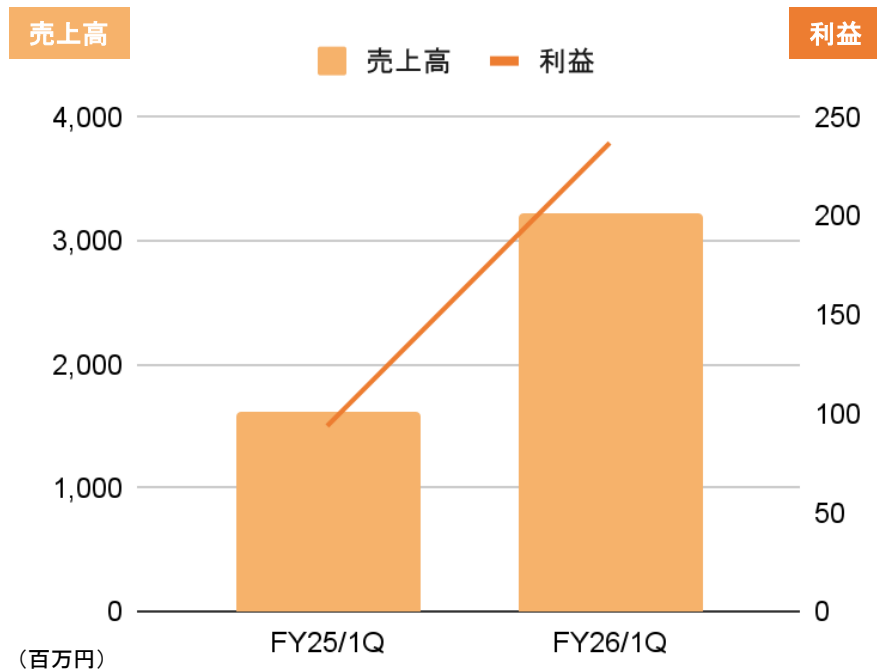
【ホテル】

・湯沢東映ホテルは、団体ツアーの減が売上高の減に影響した。

・福岡東映ホテルは、インバウンド宿泊率が上昇傾向にあり稼働率が上がった。また一室単価が上昇し売上高を押し上げた。

2026年3月期第1四半期 セグメント別分析 (連結) 【建築内装事業】

(百万円)		FY25/1Q	FY26/1Q	増減比率	
建築内装事業	売上高	1,627	3,231	1,603	98.5%
	利益	94	237	143	151.7%



・シネコンを中心とする内装工事の受注を順調に確保。

・老健施設のほか障がい者雇用支援施設などの大型工事の受注も好調で売上高の増に貢献した。

・資材費が高騰する中、利益率を意識した営業に努め、前年同期を上回る利益を確保した。

資料

映画月間興行収入

月間興行収入(億円)

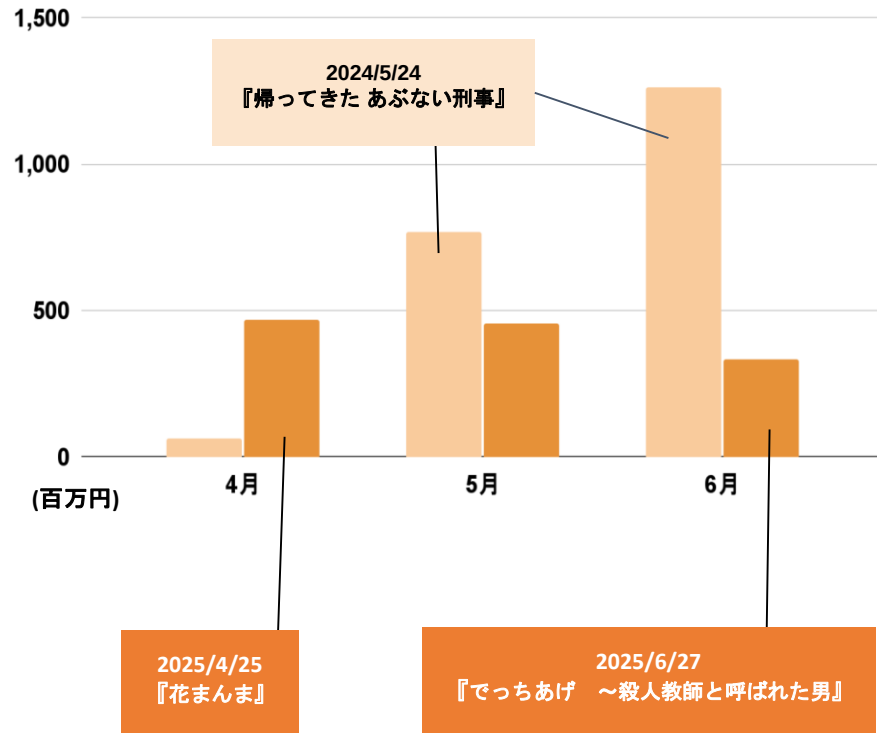
	FY25	FY26	前年度比	FY26/1Q月別の主な稼働作品
4月	0.6	4.6	770.8%	『花まんま』『35年目のラブレター』『映画おしりたんてい スター・アンド・ムーン』
5月	7.6	4.5	59.0%	『花まんま』『35年目のラブレター』『BADBOYS -THE MOVIE-』
6月	12.6	3.3	26.2%	『でっちあげ ～殺人教師と呼ばれた男』『BADBOYS -THE MOVIE-』『花まんま』
合計	20.8	12.4	59.6%	

FY26/1Qの主な稼働作品名	公開日	興収(億円)
花まんま	4/25	6.3
でっちあげ ～殺人教師と呼ばれた男	6/27	1.8 ※8/3時点では5.3

※百万円未満を切り捨てて表示しております。

月間興行収入

■ FY25 ■ FY26



【業績連動型株式報酬制度の継続及び追加拠出に関するお知らせ】 2025年5月14日開示

https://www.toei.co.jp/ir/library/other/_icsFiles/afiedfile/2025/05/13/20250514.pdf

当社は、2025年5月14日開催の取締役会において、2022年度より導入している業績連動型株式報酬制度の継続及び金銭の追加拠出について決議いたしました。なお、本制度の概要につきましては、2022年5月24日付「[役員退職慰労金制度の廃止及び業績連動型株式報酬制度の導入に関するお知らせ](#)」をご参照ください。

【株主との対話の状況】 2025年5月23日開示

https://www.toei.co.jp/ir/library/other/_icsFiles/afiedfile/2025/05/23/0523_3.pdf

当社では、IR・SR業務は、原則として経営戦略部広報室が担当しております。また、対話のテーマ等に応じて、代表取締役、経営戦略部担当取締役、経営戦略部長及び経理部長等の適任者が出席し対応しております。

国内外のアナリスト、機関投資家のファンドマネージャー及び議決権行使担当者等と対話を行い、定期的に報告しています。

【当社株券等の大規模買付行為に関する対応方針（買収への対応方針）の継続について】 2025年5月23日開示

https://www.toei.co.jp/ir/library/other/_icsFiles/afiedfile/2025/05/23/0523_2_1.pdf

当社は、5月23日開催の取締役会において、現行の「当社株券等の大規模買付行為に関する対応策（買収防衛策）」について、内容を一部変更した上で継続することを決議いたしましたのでお知らせいたします。

なお、本件は2025年6月27日開催の定時株主総会において株主の皆様からご承認をいただきました。

【株式会社ティ・ジョイの完全子会社化に関するお知らせ】 2025年6月17日開示

https://www.toei.co.jp/ir/library/other/_icsFiles/afiedfile/2025/06/17/0617.pdf

【（変更）適時開示書類「簡易株式交換による連結子会社（株式会社ティ・ジョイ）の完全子会社化に関するお知らせ」の一部変更について】 2025年7月16日開示

https://www.toei.co.jp/ir/library/other/_icsFiles/afiedfile/2025/07/16/0716.pdf

当社の連結子会社である株式会社ティ・ジョイ（以下「ティ・ジョイ」といいます）を株式交換完全子会社とする株式交換を行いました。

当社は、映画製作配給事業が主軸である当社を完全親会社、映画興行事業を担う連結子会社ティ・ジョイを完全子会社とする本株式交換を実施しました。

ティ・ジョイを完全子会社化することで、事業の機動性と柔軟性を高め、より効率的な連結経営体制の構築を図ります。また、両社間での更なる事業上の連携強化、ノウハウの共有等を通じたシナジーの創出により映像収益の最大化を実現し、企業価値の向上に努めます。

株式会社ティ・ジョイ 概要

<https://tjoy.co.jp/about/company>

設立：2000年8月28日

資本金：30億円

代表者：代表取締役社長 多田憲之（東映株式会社 代表取締役会長）

従業員数：1,726人（2025年3月末現在）

劇場（共同経営、共同運営含む）：23サイト230スクリーン

本社所在地：東京都中央区銀座一丁目13番1号 ヒューリック銀座一丁目ビル10階

【第102期定時株主総会決議等のお知らせ】 2025年6月27日開示

https://www.toei.co.jp/ir/about-stocks/meeting/_icsFiles/afieldfile/2025/06/27/0627.pdf

6月27日（金）に第102期定時株主総会を開催いたしました。

第102期（2024年4月1日～2025年3月31日）の事業報告、計算書類、連結計算書類の内容等について報告を行い、以下の議案が原案通り承認可決されました。

・第1号議案 剰余金の処分の件

期末配当金は1株につき12円（普通配当6円、特別配当6円）、また中間配当は6円、年間の配当は18円

・第2号議案 取締役（監査等委員である取締役を除く）8名選任の件

原案どおり、多田憲之、吉村文雄、和田耕一、鎌田裕也、小嶋雄嗣、早河 洋、野本弘文、植木義晴の8氏が再選され、それぞれ就任いたしました。なお、野本弘文、植木義晴の両氏は、社外取締役です。

・第3号議案 当社株券等の大規模買付行為に関する対応方針（買収への対応方針）継続の件

なお、当社取締役のスキルマトリックスは、有価証券報告書（p18）に開示しています。

https://www.toei.co.jp/ir/library/securities/_icsFiles/afieldfile/2025/06/25/0625.pdf

<長期保有株主優待について>

この度当社株式を長期に渡り保有していただいている株主様を対象に、長期保有株主優待を実施しています。

●対象者

2025年9月30日時点の当社株主名簿に、同一株主番号で3回以上連続して1単元（100株）以上の保有株式数が記載または記録された株主様。

●優待内容

当社新作映画等のチケット・または舞台挨拶ご招待を予定しています。

現在募集中の長期保有株主優待

「全スーパー戦隊展」関連グッズ

詳細及びご応募はこちら▶
（募集締切：8/24（日）23：59）



【映画】

2025年

- 8月15日 『ChaO』
- 9月12日 『Dear Stranger / ディア・ストレンジャー』
- 9月12日 『映画キミとアイドルプリキュア♪』
- 9月19日 『宝島』
- 10月3日 『劇場版総集編 ガールズバンドクライ【前編】青春狂走曲』
- 11月14日 『劇場版総集編 ガールズバンドクライ【後編】なあ、未来。』
- 10月24日 『ゾンビランドサガ ゆめぎんがパラダイス』
- 11月14日 『港のひかり』
- 12月5日 『ペリリュー-楽園のゲルニカ-』
- 12月19日 『楓』

2026年

- 公開予定 『楽園追放 心のレゾナンス』
- 2月13日 劇場版『僕の心のヤバイやつ』

TOPIC



『ChaO』 アヌシー国際アニメーション映画祭にて審査員賞を受賞

アニメーションスタジオ「STUDIO4℃」制作。
アヌシー国際アニメーション映画祭2025 長編コンペティション部門にて、準グランプリに相当する審査員賞を受賞。
日本映画作品としては8年ぶりの受賞となった。

音楽ライブツアーの実施で新規ファン開拓、リピート鑑賞を狙う

プリキュアシリーズ初となる「【#映画キミプリキミに会いたい！真夏のキラッキラライブツアー♪】」を全国8都市にて実施。キャラクター人気にとどまらず楽曲ファンの開拓、拡大を図り、リピート鑑賞客を狙う。



【テレビ】

- 2024年9月1日～ 『仮面ライダーガヴ』（テレビ朝日系）
- 2025年2月16日～ 『ナンバーワン戦隊ゴジュウジャー』（テレビ朝日系）
- 2025年7月9日～ 『大追跡～警視庁SSBC強行犯係～』（テレビ朝日系）
- 2025年9月～ 『仮面ライダーゼッツ』（テレビ朝日系）



TOPIC

2025年9月『仮面ライダーゼッツ』放送開始



仮面ライダーゼッツは、人の夢に潜入しミッションを遂行するエージェント。近未来的な設定や、シリーズ初の腰ではなく胸に巻く変身ベルトなど、これまでにない新しい仮面ライダーとして描く。

【テレビアニメーション】

- 2024年10月5日～ 『科学×冒険サバイバル!』（NHKEテレ）
- 2025年2月2日～ 『キミとアイドルプリキュア♪』（ABC・テレビ朝日系列）
- 2025年4月4日～ 『えぶりでいホスト』（テレビ東京系）
- 2025年4月6日～ 『ゲゲゲの鬼太郎 私の愛した歴代ゲゲゲ』（フジテレビ系）
- 2025年10月～ 『DIGIMON BEATBREAK』（フジテレビ系）



配信・催事 ラインナップ

【配信】

2025年7月13日 『爆上戦隊ブンブンジャー

formation lap 始末屋 オブ ギャラクシー』



【催事】

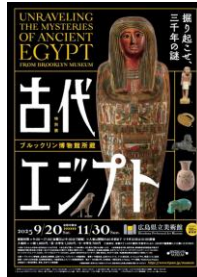
- ・『松本零士展 創作の旅路』 2025年6月～ 東京、福岡、愛知ほか
- ・『全スーパー戦隊展』 2025年8月～ 東京、愛知ほか
- ・『キミとアイドルプリキュア♪キラッキランラン♪フェスタ♡』 2025年8月～ 東京、愛知
- ・『ONE PIECE EMOTION』 2025年8月～ 福岡、大阪
- ・『ブルックリン博物館所蔵 特別展 古代エジプト』 2025年9月～ 広島、福岡ほか
- ・『仮面ライダーガヴ ファイナルステージ』 2025年9月～ 石川、大阪、福岡、愛知、東京
- ・『超クウガ展』 2025年10月～ 愛知、大阪
- ・『ダンダダン ゲンガテン』 2025年10月～ 広島、福岡、大阪

【ショー・舞台】

- ・『東映ムビ×ステ 舞台「死神遣いの事件帖 終(ファイナル)」』 2025年8月～ 東京、福岡、大阪、石川、京都

【商品】

- ・仮面ライダーストア ポップアップストア 2025年8月～ 大阪、北海道、宮城ほか



TOPIC

「超クウガ展」

(2025年6月14日～7月6日 東京ドームシティ Gallery AaMoにて開催)



今年25周年を迎える『仮面ライダークウガ』。放送当時のファンである20代後半・30代男性を中心に、50代以上の女性等にも広がりを見せ総動員数48,000人を記録した。また物販収入は4.1億円となり、オリジナル商品や図録が好調だった。今後、地方会場も巡回していく。

東映グループのビジネスモデル

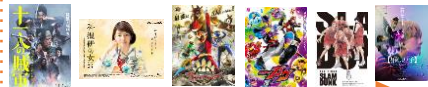
① 自ら企画製作し、

多様で魅力的な作品群を企画

- ・ 劇場映画 4,400作品以上
- ・ テレビ映画 39,000話以上
- ・ 配信映画 600話以上

オリジナル

原作もの



映像製作インフラ

- ・ 撮影からポストプロダクションまでのワンストップ体制

撮影



東京撮影所



京都撮影所

映像研究



トゥーン研究所

ポストプロ



東映ラボ・テック

アニメ



大泉スタジオ

② マルチユース展開

- ・ 劇場からテレビ、ネット配信までマルチチャネルをカバー

配給

DVD Blu-ray

興行

商品化

テレビ放送

書籍化

配信

ゲーム化

イベント化

舞台化

海外展開



ティ・ジョイ



東映
オンラインストア



東映特撮
YouTubeOfficial

③ 作品をフランチャイズ化することで接点を増加

IPが生み出す収益の最大化を目指す

収益 最大化

IP認知度向上
ファン化等

利益の積重ね

企画

製作

マルチ
ユース

利益の積重ね

企画

製作

マルチ
ユース

IP

接点
増加

中長期VISION「TOEI NEW WAVE 2033」全体像

経営ビジョン2033	To the World , To the Future －「ものがたり」で世界と未来を彩る会社へ－	
2026年で目指す姿	実写・アニメともにグローバルコンテンツの創造発信基盤を確立する	
東映グループの強み	企画製作力	マルチユース展開
成長戦略	実写、アニメ映像事業を強化・拡大し、グローバル展開を加速する	
重点施策	1 映像事業収益の最大化	2 グローバル展開へのチャレンジ
	1. 企画製作力の強化 2. コンテンツのマルチユース促進 3. IPライフサイクルの長期化	1. グローバルメジャーと共同開発・世界展開 2. 現地企業とローカライズオリジナル作品の共同制作
	3 映像事業強化のための人的投資の拡大	
	4 持続的なチャレンジと成長を支える経営基盤強化	
	① 事業基盤強化に向けた投資戦略	② コーポレートガバナンスの強化
	③ サステナビリティへの取り組み	④ 資本・財務戦略

本資料について

本資料の内容には将来に対する見通しが含まれていますが、実際の業績は様々な状況変化や要因により、見通しと大きく異なる結果となりえることがあり、保証を与えるものではありませんのでご了承下さい。

また、本資料の無断転載はお断りいたします。

本資料に関するお問合せ
東映株式会社 経営戦略部広報室
MAIL : keisen_koho@toei.co.jp
担当 : 内藤 篠崎 奥本 加藤

© 2025 「ChaO」 製作委員会 ©2025 キミとアイドルプリキュア♪ 製作委員会 ©Roji Films, TOEI COMPANY, LTD. ©真藤順丈／講談社 ©2025 「宝島」 製作委員会 ©2025 「港のひかり」 製作委員会
©2025 映画『楓』 製作委員会 ©テレビ朝日・東映AG・東映 ©テレビ朝日・東映 ©2025 石森プロ・テレビ朝日・ADK EM・東映 ©Gomdori co., Kim Jeung-Wook, Han Hyun-Dong／Mirae N／
Ludens Media／朝日新聞出版／NHK・NEP・東映アニメーション ©ABC-A・東映アニメーション ©ごとうにも／えぶりでいホスト製作委員会 ©水木プロ・東映アニメーション ©本郷あきよし・東
映アニメーション ©東映特撮ファンクラブ ©松本零士／零時社 ©東映 ©石森プロ・東映 ©Marvel Characters, Inc. All Rights Reserved" ©ABC-A・東映アニメーション ©Eiichiro Oda/Shueisha, Toei
Animation Photo: Brooklyn Museum ©2024 石森プロ・テレビ朝日・ADK EM・東映 ©龍幸伸／集英社 ©2025 toei-movie-st ©2024 「十一人の賊軍」 製作委員会 ©石森プロ・テレビ朝日・ADK
EM・東映 ©I.T.PLANNING, INC. ©2022 THE FIRST SLAM DUNK Film Partners ©赤坂アカ×横槍メンゴ／集英社・2024 映画【推しの子】 製作委員会